



学会報告

“The 13th Annual Meeting of Asian Epigenome Alliance”

服部奈緒子

(国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野)

2018年9月18日から21日に、中国上海で開催された The 13th Annual Meeting of Asian Epigenome Alliance (AEA) に参加いたしました。本会は、アジアの国々（日本・中国・韓国・台湾・シンガポール・インド）のエピジェネティクス研究者間のネットワークを広げることを目的として運営されており、毎年持ち回りで年会在開催されています。

今回は、Jingde Zhu 先生（中国科学技術大学）と Xiangdong Wang 先生（復旦大学附属中山医院）が主催し、The 4th Shanghai International Workshop of Epigenetics in Development and Disease との共催として、4日間に渡って約60題の口頭発表と約20題のポスター発表が行われました。AEAのメンバーに加え、中国国内を中心に多くの若手研究者が招集されていました。日本からは、AEAの組織委員である牛島俊和先生（国がん）と近藤豊先生（名大）、中山潤一先生（基生研）も参加され、近藤先生と中山先生が口頭発表をされました。私は、若手枠として選んで頂き、小児腫瘍の神経芽腫に対するエピジェネティック治療の前臨床試験に関して発表する機会を得ることができました。

発表は、植物からがんまで対象は幅広く、内容もDNAメチル化・ヒストン修飾・RNA・single-cell解析・インフォマティクスと網羅されておりました。最近、一流紙に発表されたものも数多くありました。Bo Zhou 博士（上海生命科学研究院・中国）は、mRNAのm6A修飾酵素であるMettl3-Mettl14の欠損造血系細胞を作成し、その造血幹細胞での重要性を示されました（Cell Report 2018）。他にもm6A RNA修飾に関してレベルの高い発表が数多くあり、RNA研究における中国の勢いを感じました。Haitao Li 博士（精華大・中国）は、ご自身がヒストンクロトニル化のリーダーとして同定したAF9 YEATSが、遺伝子発現を活性化する分子メカニズ

ムを示され、また、chemical probeを用いて阻害剤を開発し、MLLへの効果を発表されました（Nat Chem Biol 2018）。綿密な生化学実験と新しい視点からのアプローチの重要性を感じました。インフォマティクス研究としては、Jung Kyoony Choi 博士（KAIST、韓国）が、最近発表されたLINE1の活性化と消化器がんの免疫signatureの研究（Genome Res 2018）に引き続き、未発表データとして、がん免疫療法の治療前肺がん検体を用いた統合的解析の結果、DNAメチル化ががん免疫療法の抵抗性マーカーとなりうるという話をされました。Sheng Zhong 博士（UCSD、米国）は、以前に開発されたRNA-chromatin相互作用を解析するMARGI法を用いて、核スペックルの辺縁部に存在するnsaRNA（nuclear speckle-associated RNA）が相互作用しているゲノムクラスターを同定し、それは細胞種特異的であること、TADと関係があることを、顕微鏡データとシーケンスデータの統合で示されました（iScience 2018）。



ライトアップされた建築が綺麗な外灘(Bund)地区。左から、中山先生(基生研)・筆者・いろいろと面倒見てくれた学生のJingqiさん・近藤先生(名大)。



今回、中国の同世代の方々と話す機会があり、「日本と仕組みが違うから、professor には比較的簡単になれる」と説明されましたが、留学後に独立して、独自の研究を行うために努力されている姿を見て、とても刺激を受けました。また、初めての上海を満喫できたミーティングでもありました。上海の最も有名な観光スポットである外灘からの夜景や南京路の人ごみもさることながら、お店での支払いは全て WeChat Pay で行い、タクシーもスマホアプリで管理という生活スタイルには驚きました。

来年は、台湾で Li-Jung Juan 博士が開催し、欧米を中心にそろそろたるメンバーを演者として予定しているとのことでした。AEA ミーティングは、アジアにおけるエピジェネティクス研究の流れを感じ、ネットワークを作る良い機会です。是非とも、来年も参加したいと思います。



若者や外国人に人気のバーのある新天地。左から、中山先生(基生研)・シンガポールの Prabhakar 先生・筆者。



特大スクリーンの壇上で話されている、今回の主催者の Jingde Zhu 先生。スクリーン画面は来年の台湾でのミーティングのお知らせ。

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

- (代表) 中島欽一 (kin1@scb.med.kyushu-u.ac.jp)
- 梅澤明弘 (omezawa@1985.jukuin.keio.ac.jp)
- 古関明彦 (koseki@rcai.riken.jp)
- 胡桃坂仁志 (kurumizaka@waseda.jp)
- 中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

佐賀大学医学部 分子生命科学講座
分子遺伝学・エピジェネティクス分野内
庶務担当幹事：副島英伸
担当：八木ひとみ

住所：〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
TEL: 0952-34-2262
E-mail: jse-jimukyoku@ml.cc.sags-u.ac.jp